

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102206		
法人名	医療法人社団 上野会		
事業所名	グループホーム にれのき荘		
所在地	熊本県熊本市北区龍田4丁目12-22		
自己評価作成日	平成30年7月23日	評価結果市町村報告日	平成30年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ラジオ体操やパワーレクリエーションをとり入れ、運動する習慣をつけ身体機能の維持と低下防止につとめています。</p> <p>②外出する機会を多く作り、季節感を味わっていただくと共に、家族と一緒に同じ時間を過ごすことにより絆の絶えない関係作りを支援しています。</p> <p>③年1回の地域交流会を開催し、地域住民との関係を深きづいて頂き、入居者様と地域とのつながりが途切れず、活き活きと暮らしていただけるよう支援しています。</p> <p>④自分らしく自由に暮らしていただけるよう、個々の要望や意見を聞き各場面では一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設時より力を入れてこられた近隣住民との関係作りも定着し、日常的な付き合いが出来てきている様子が見られました。新し管理者のもと、職員はこれまでの事業所の良さを引き継ぎ、また新しい取組みで業務改善を重ね、入居者の尊厳を尊重した理念を元にケアが行われています。入居者の穏やかな生活の中、生活リハビリを大切に、職員の見守りの中で自立に向けた支援が行われています。家族アンケートによるとケアに対する満足度も高く、また意見に真摯にと取組み改善に向けた対応がとられていることが窺えました。今後も地域とともに入居者の安全で安心な生活への取組みに期待しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員研修時、説明行い、施設の各場所に掲示し意識統一に努めている。	職員入職時には管理者より理念について研修を行っている。法人・地域の方々も参加する運営推進会議でも随時触れ、全体での意識統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベントへ参加させていたが、地域住民との交流を図っている。消防訓練にも参加していただき、年1回の地域交流会(たこやきパーティー&花火大会)を開き地域住民との交流も図っている。	開設以来大切にしてきた地域との繋がりは継続したものとなっている。入居者が出向く地域行事はもちろん、年1回地域住民を招待しての交流会を開催し、来訪による交流も行っている。	閉鎖的な空間にならないようにと計画された地域交流会はメニューも多彩で、喜ばれている様子が聞かれました。今後の継続に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンへ系列の施設職員と定期的に訪問している。又、実習生を積極的に受け入れ認知症ケアへの理解へ活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催し、入居者の状況や活動報告を行い助言等をいただき、地域や行政関係の情報交換も行っている。運営推進会議を活用して身体拘束廃止委員会も開催し、身体拘束ゼロの取り組みも話し合っている。	2ヶ月毎の会議には地域・法人・利用者家族・職員・入居者代表にて構成され、活動報告や意見交換が行われている。特に行政の最新の動きは地域住民にも伝えられ、有用な情報交換の場とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヵ月に1回熊本市から介護相談支援員の訪問を受け入れている。報告書等からの情報交換も行い、サービス上での疑問・質問がある場合はその都度、市へ連絡している。	ささりありより運営推進会議や身体拘束廃止委員会の構成員として参加があり情報を得ている。また市からの介護相談支援員受入れ、担当者への連絡等、日頃の様子を積極的に伝え、関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回と新人職員研修時に勉強会を行っている。運営推進会議を活用し身体拘束廃止委員会を開催しその内容を全職員へ周知徹底するとともに、身体拘束をしないケアに努めている。日中は全ての出入り口は施錠せず自由に入出入りできるようにしている。	身体拘束廃止委員会を設置、2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会での事例検討等内容は全職員への周知を行っている。職員研修は年2回の研修を行い、現在では「身体拘束をしない介護」が徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内勉強会を開催し全職員の意識向上と虐待を見逃さないよう努めている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内勉強会を開催し全職員の意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時は、管理者が利用者・家族へ十分説明を行い、不安や疑問点にはわかりやすく丁寧に説明し納得、安心していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族代表に参加していただき意見をうかがっている。また、毎月の支払時には対面に対応しており、その際、現状の説明や意見を聞く機会をもうけている。	運営推進会議や行事等、家族が参加できる機会を作り、意見を得る機会としている。また毎月1回は家族の来所があり、その際には入居者の状況報告・相談・意見を聞いている。日頃から要望はよく出ており、職員・家族との話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩や食事の際、意見や提案があれば聞くようにしている。普段の表情や態度を把握し、必要時に応じて個別で話を聞いている。	毎月勉強会の後業務改善ミーティングを行っており、業務に関してだけでなく全体的な職員からの意見が出しやすい環境を作っている。また日頃から管理者は職員の様子を把握し、状況次第では個別対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備や健康診断の実施にて職員の心身の健康状態の把握につとめ、職員個々の努力や実績を把握し向上心をもって楽しく働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には個々のレベルに応じて参加決定し、スキルアップの資格取得には積極的に支援している。内部研修を開催し全職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県で開催される定期的な勉強会や研修会に参加し意見交換や情報の共有を行い交流を図っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、面談を行い心身の状態や不安な事等を傾聴し安心に繋げた関係づくりに努めている。体験入居も可能。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談を行い、今までの生活状態やこれまでの経緯を聞き、不安や要望等に傾聴を行い安心できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談を受けた時点で早急な対応が必要と判断した場合、他の事業者に連絡をとり空室状況を伝えたり、空室状況がわかるホームページ等を紹介する等対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していくなかで、朝の掃除や洗濯物干し、たたみ等を職員と一緒にやり、役割をもってもらうことで、役に立っているという思いを感じてもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会、クリスマス・忘年会、花見、敬老会等には家族も参加していただき共に同じ時間を過ごすことで関係が途切れないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の仕事仲間、昔住んでいた近所仲間に来訪や一緒に外出される等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	入居者と家族の関係を大切にしており、定期受診以外の専門医等受診や外食、墓参り等続いている。また入居以前の知り合いの継続したお付き合いや前民生委員の方は、菜園づくりのアドバイスなど、従来の関係継続ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のその日、その時間の心身状態や気分、感情、表情を職員間で情報共有し注意深く見守りトラブルがないよう職員が調整役となっている。又、入居者同士励ましあったり、ねぎらったり楽しく会話をされる部分も多く見られる。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られた際は、面会に伺ったり、家族と連絡を取り合い、相談支援等に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で入居者との会話や関りの中で思いや、希望・意向の把握に努めている。又、家族からも情報収集を行い把握に努めている。	日々の関わり、特に食事時間の団らん時や入浴時にはゆっくりと会話すること等により意向の把握に努めている。また家族にも声掛けを行い、思いや意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、入居者、家族から情報を聞き取り入居後も、生活していく中で行動面や発言等から情報収集を行い、職員間で情報共有し家族からも随時、話を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、個々の生活リズムや有する力を把握し、職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に3か月毎にモニタリングを実施しサービス担当者会議の開催や個別で面談を行い、本人・家族、他職員の意見や要望を取り入れ一人ひとりに沿った介護計画を作成している。	職員は入居者それぞれの担当が決まっているが主に身の回りや室の整理整頓の責任者で有り、介護計画に関することは計画作成担当者が全職員の意見を基にアセスメントを行い、3ヶ月毎の介護計画見直しを行っている。全職員が入居者それぞれの日々の様子を把握しており、必要に応じ計画の見直しが必要な際は随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状況や言動など様子を個別に記録を行い、全職員で共有しケアや介護計画にいかすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をいかし看護師による健康管理の継続や通院支援を行っている。入院の際には、顔なじみの看護師が対応でき本人・家族の安心感にもつながっている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や美容員等のボランティアにて化粧やネイルをうけられ、職員以外との関りをもつことにより、良い刺激がありイキイキと楽しい生活を送られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、受診前後に情報共有を行い継続できるよう支援している。家族付添い受診困難な場合と系列の病院への定期受診の際は、施設職員が受診支援を行っている。	入居前からのかかりつけ医の継続受診にて対応している。関連事業所である医療機関へは毎月定期受診で職員付き添いにて通院している。その他それぞれの通院には基本的に家族が付き添い、必要に応じ職員が同行し情報の共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師2名と兼務の看護師1名により常に健康管理に努めている。情報交換すると共に報告・連絡・相談ができる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の情報を提供すると共に、見舞い、病状の把握に努め早期退院に向け、病院側と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定め、入居時に対応方針を十分に説明し、同意を得てかかりつけ医、本人、家族と相談しあっている。	入居時に重度化した場合の指針・対応について入居者・家族へ説明と同意を得ている。その時を迎えた際にも今後の対応について都度話し合いを行い、日頃から医療連携の体制を取っており協力体制も整えているが、現状では医療機関を選ばれる場合がほとんどである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・救急時のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。救急時・緊急時医療確認同意書を作成し、ご家族へ十分に説明と同意を得て、急変時には迅速に対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼間・夜間)の消防訓練、年1回の地震訓練を実施している。訓練時には近隣住民の方、法人の系列施設職員の協力を得ている。	火災・地震訓練とも入居者・近隣住民の参加もあり実施している。夜間の場合には入居者は蛍光タスキを利用し人数確認に活かす等の工夫も見られる。自衛消防組織、火災予防管理組織の体制、緊急連絡・関係連絡先の掲示等、職員に分かりやすい掲示もある。	

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重やプライバシーを損ねないような言葉使いや話す距離感を意識して対応している。特に、入浴時や排泄時などは、特にプライバシーに配慮して、その人にあった対応を行っている。	一人ひとりに合わせた声掛けや声の大きさ等に配慮している。特に入浴時・トイレ排泄時には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時の買い物や、入浴時など多くの場面において自己決定できるようさりげなく声かけを行い支援している。日常生活会話の中で、本人が望む生活をさりげなく聞くことにより、その情報をもとに職員間で共有し、今後の支援にもいかしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、食事時間や入浴日、起床時間等、その日の体調も考慮し希望にそって柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出行事の際は、こちらから洋服を決めるのではなく、本人と一緒に洋服選びを行い、その人に合った身だしなみができるよう支援している。化粧やマニキュア等のボランティアの方が訪問された際は、声かけを行いおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、配膳や給茶、茶わん拭き等、一緒に行っている。食事の際は、メニューの味付けや具材などの会話で話が盛り上がり、楽しく食事ができる環境である。食事際、穏やかなBGMを流し、落ち着いて食事ができる環境を提供している。	家庭的で食材豊かに職員手作りの食事を提供している。むやみに刻みや流動食に固定せず、その日・その時の体調等により対応するが、できるだけ無理しない範囲で普通食を提供している。職員も同じ食事でテーブルにつき共に時間を過ごすことで、それぞれの状況把握もできている。	食事時間はテレビを消しBGMとし、また職員が共に食事を摂ることで、落ち着いて食事を楽しむ状況が窺えました。是非今後もこの環境を大切にしてください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や肉類、魚類等バランスを考えた食事を提供している。定時の水分補給以外にも体調に応じて随時、水分補給を行っている。水分補給時は、一人ひとりの好みにあわせココアやジュースなど柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて洗面台で口腔ケアされる。磨きが不十分な時は声かけを行い、磨きの介助を行っている。義歯を使用されている方は、毎晩寝る前に義歯を預かりポリドントで洗浄・消毒を行っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員トイレで排泄できている。紙パンツ使用の方はプライバシーに配慮した声かけを行い、紙パンツのチェックを行い清潔保持に努めている。排泄の失敗がないよう一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等を行っている。ズボンの上げ下げ等、自立に向けた支援を行っている。	現状、自立に向けた支援として見守りを中心とし、紙パンツやパットを利用しながらも屋間は皆トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレの利用もあるが、トイレの利用も殆どである。	入居者一人ひとりに応じた対応の様子が窺えました。業務改善ミーティングにより排泄チェック表の在り方を見直したりと、その後の検証も行い改善に繋がった例も窺えました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分補給時は、のむヨーグルト(乳製品)を取り入れ便秘予防に努めている。レクリエーション時には、本人の体調に合わせて、ラジオ体操や軽いリハビリ体操を行い、運動量を増やし自然排便に近づこう努めている。個別でヤクルト系の飲料にて自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて柔軟に支援している。入浴拒否された場合は、日にちをずらしたり、時間をおいて再度声かけを行うなど一人ひとりの体調や状態を把握して希望に沿った支援をおこなっている。	1日おきの入浴を基本とし、順番、温度等、好みも考慮し個々に対応している。出来るだけ「できることは自分で」の対応としており、職員の見守りの中、自立に向けた支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの行動や表情等を観察し、体調や状態を把握して、自由に自室等で休息できるよう声かけや誘導を行っている。夜間の就寝前には、安眠していただけるよう空調調整を行っている。夜、覚醒されている時は安眠できるよう、温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服中の薬の種類等を書いた表を事務所に貼り、確認するようにしている。変更時には、個人のカルテ、伝達ノート、業務日誌に記録し職員全員に周知徹底情報共有している。薬のセッティング時、事務所からもっていく時、与薬時には本人である事を確認して援助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意分野を生かした力を発揮していただいている。茶わん拭きや床掃除など積極的に笑顔でとりくまれ、自分が役に立っていると感じられている。パズルや絵画、カラオケ等も楽しんで参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの趣向を把握して、個別で外出を行っている。外の散歩も一緒に付添い見守り支援を行っている。又、全員で外出する機会を設け、花見や敬老会等、家族にも参加していただき、コミュニケーションを図ることもできている。	入居者の意向により個別の外出支援を行っている。今年は猛暑で散歩に厳しい状況であったが、気候が良い時期には散歩も見られる。季節やイベント等計画行事以外にも、家族や知り合いとの外出もよく見られる。	

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームにれのき荘
作成日 平成30年9月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流で夏に年1回、地域交流会を行っているが、まだ地域の方の参加が2組ぐらいである。	地域交流会に地域の方がもっと多く参加していただけよう今後も継続し工夫して開催していく。	P1案内状配布の範囲を広げる。 P2当日、にれのき荘の前を通る方に直接案内のお声掛けをする。 P3近隣の学校や幼稚園等に案内の声かけに行く。	H30. 4. 1～ H31. 3. 31
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。